

令和3年度事業報告

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで
特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター

1 運営の概要

(1) コロナ禍の財政運営

令和3年度は令和2年度から引き続き、コロナ禍での活動を余儀なくされた。

法人の財政状況も、直営施設「風のスタジオ」、指定管理施設「もりおか町家物語館」「宮古市民文化会館」とも利用料収入を減じさせるとともに、燃料費の高騰等も加わり全ての施設で赤字決算となり、それにとまなう市当局からの補填も極めて少なく、職員の安定雇用にも影響を与えかねない事態に直面した。

この状況を文化庁の「子どもたちの伝統文化事業」と「アートキャラバン事業」の採択を受け、辛うじて法人運営と職員雇用を守ることが出来た。

(2) 指定管理施設の運営

指定管理施設は、「もりおか町家物語館」「宮古市民文化会館」ともコロナ禍による利用者減を余儀なくされた。さらに、宮古市民文化会館では後期に燃料費が高騰し、収支の悪化を招いた。もりおか町家物語館で約1,891千円の赤字、宮古市民文化会館で約1,019千円の赤字となった。

また、宮古市民文化会館は指定管理の要件となっている「みやこ市民劇」がプレ公演を実施出来たものの、コロナ禍（第6波）で本公演は本年5月に延期を余儀なくされた。

もりおか町家物語館は、盛岡市の委託を受け、大正蔵2階で市所蔵美術品の企画展示を開始した。大正蔵1階のショップ&カフェは、4月から開始したが、当初は「松ぼっくりジェラート」が好評で売り上げが伸びたが、コロナ第5波、6波の影響で、8月以降の、売り上げは激減した。カフェは岩手県の感染予防対策の認証店となった。

(3) 本部の事業運営と風のスタジオ運営

本年度の企画制作事業は、コロナ禍対策として実施した文化庁の「アートキャラバン事業～アーツライブいわて」と「子どもたちの伝統文化事業」を中心に展開し、指定管理施設の赤字分を辛うじて吸収でき、課題だった肴町事務所の改修が可能になった。

しかし、これまで法人が力を入れてきた東日本大震災からの「文化芸術によるコミュニティづくり」は、震災10年を経過し助成額が大きく減じられるとともに、コロナ禍の影響で、活動が制限

され、今後に課題を残した。

風のスタジオの一般利用は、度重なるコロナの波によって、大きく利用者を減じ、中止・延期の先が見える活動が出来なかった。

2 課題

財務体質の強化につながる認定法人化（寄附税制の優遇措置を受けられる）を将来実現できるよう目指すため、正会員 20 名以上及び賛助会員 100 名以上の常態化を達成させるよう会員増強計画の検討や「サポーター」の増強に努めることとしたが、これも、コロナ禍で実現できなかった。

また、もりおか町家物語館は、数年続いている入館者の減少傾向が令和 3 年度も続いた。大正蔵 ショップ&カフェの経営は、漫然としていてはコロナ禍に立ち向かうことは難しいことから、観光客ばかりではなく、市民にも利用される品揃えや企画を実施する必要があるとともに、これまでの事業展開や展示企画の見直しを含め、大胆な集客活動の見直しが必要となっている。また、地域行事のマンネリ化も否めず、盛岡市や盛岡まち並み塾、地域住民等との協議も必要であるとともに、もりおか町家物語館を中心に法人が全力で地域活性化のリーダーの役割を担う必要がある。

コロナ禍対策では、令和 2 年度、3 年度で各種助成等を活用して、WEB 会議やオンライン配信の機器導入、事務室の模様替えなど実施した。今後とも、各種助成制度の活用で「新しい日常」に対応できる業務基盤を整える必要がある。

また、法人の人材育成と部署間交流も課題となった。制作、舞台技術等の能力開発とコミュニケーション能力の向上が求められるとともに、各部署間の意思疎通の齟齬が認められた。法人が、顧客（文化芸術関係者、観客、利用者、出演参加アーティスト等）に信頼を得るためには、法人職員の社会人モラルの確立と能力開発が肝要である。

持続可能な文化芸術活動を保持するため、多くの文化芸術関係者と連携し県内の文化芸術の振興に役割を果たすことが求められている。そのための情報共有と発信、活動の連携、課題協議を行うプラットフォームづくりが課題となっている。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名	事業概要	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額(千円)
1 情報発信事業	1 HPの運営	岩手のアーツ情報の紹介。FB、Twitterも併用(本部及び指定管理施設の相互リンク)	通年	全域	3名	FB・Twitter 約24,000 ビュー	42
	2 「風の通信」発行(毎月発行)	もりおか町家物語館通信と共同製作とする。主催事業紹介とコラム等。リレーエッセイも掲載。(HPにも同時掲載)	通年	全域	2名	会員及び利用者 約1,000名	19
2 人材育成事業	1 チャレンジシアター	若手及び新たな企画を提携公演(利用料35%引き)としてTEAM HACCH旗揚げ公演『ただいま、しっそうちゅう。』実施。	3月	盛岡	1名	観客数84名	0
	2 次世代育成事業	○東京から経験豊かな舞台スタッフを招き、舞台スタッフのワークショップを企画した。 ○みやこジュニアアンサンブルやみやこ子ども劇団デイジーの育成。 ※事業費は「3-4 宮古市民文化会館企画事業」に合算	1月	全域	2名	参加者のべ15名	—
			通年	宮古	2名	参加者・観客 総数 842名	
	3 サポーター研修	風のスタジオにて舞台技術講習会を2回実施した。	5月 7月	盛岡	1名	参加者のべ21名	0
4 文化振興プロジェクト	真如苑の助成で、文化支援ネットワークがプログラ	通年	岩手県内	4名	参加者・観客 総数	2,965	

	事業	ム編成し、音楽・美術・演劇・文学・映像の各分野を支援。旋風の劇場、宮古・二戸演劇交流、いわてフィル定期演奏会、三陸太鼓フェス、朗読劇公演ワークショップ等を行った。				799名	
	5 みやこ市民劇ファクトリー事業	第3回みやこ市民劇の実施と、そのためのスキルアップを目指す文化ボランティア事業（宮古市民文化会館事業）※事業費は「3-4宮古市民文化会館企画事業」に合算。	通年	宮古	1名	のべ参加人数 216名	—
	6 職員・会員研修	特に新採用職員を対象に「法人の基礎的な会計事務」および「制作業務の基礎知識」について研修を実施した。また、カフェ&ショップ接客についての基礎研修をもりおか町家物語館職員を中心に実施した。	随時	盛岡	2名	参加者 20名	0
3 企画制作事業	1 朗読劇	○アーツライブ事業「語りの芸術祭」にて、朗読「銀河鉄道の夜」朗読劇 高橋克彦百物語「鏡の記憶」、リーディング「悪魔をやっつけろ」公演を実施。 ○いわて文化支援ネットワーク事業にて朗読劇「あの日から～加奈子～」公演実施。	12月 1月	盛岡	3名	観客総数 240名	2,048
	2 企画総務	○風のスタジオ企画運	2月 3月	釜石 盛岡	6名	公演総観客	666

部及び風のスタジオ企画事業（朗読劇を除く）	<p>営・旋風の劇場 vol.3『Re SPR.OUT』実施。</p> <p>○アーツライブいわて令和3年度事業での「語りの芸術祭」（朗読、落語、講談その他）、「コレオグラフィーズ・セッション」、「クラブナイト」「イーハトーブ心象スケッチコンサート」実施。</p>	11月 12月 1月	盛岡 二戸 北上		数 951名	5,536
3 もりおか町家物語館企画事業	<p>○MACHIYART2021 盛岡彫刻シンポジウム、エニナルモリオカほか展示企画実施。</p> <p>○したまち小劇場祭公募公演、お化け屋敷は中止。</p> <p>※事業費は「5-2 指定管理事業 もりおか町家物語館」に合算。</p>	9月 ～12月	盛岡	3名	展示観客数 2,606名	—
4 みやこ市民文化会館企画事業（学校及び一般鑑賞事業等を除く）	<p>○みやこアップデート事業 MIYAKO A.I.R 『三陸 BUDORI』実施。</p> <p>「三陸ライブ借景」「介護と演劇」は中止。</p> <p>○18歳以下のワークショップ事業（デイジーWS）</p> <p>○コミュニティシアター事業（コンサートキャラバン、みやこ市民劇フォローアップ）</p> <p>○ジュニアカンパニー事業（次世代育成と再掲）ほか</p>	7月 9月 2～3月 通年 4～11月 通年	宮古 沿岸 宮古 宮古 宮古	4名 2名 2名 2名	参加者・観客数 52名 参加者 5名 総観客数 156名 総観客数 842名	—
5 創造及びコ	「アーツライブいわて」事	6月～	岩手	6名	参加者数（出	29,448

	コロナ禍対策企画	業の展開 事業内容： ○語りの芸術祭いわて（県内3カ所） ○A.I.R.&LAB inMORIOKA/SHIWA（盛岡・紫波） ○三陸MMCXI（沿岸） ○イーハトーブ心象スケッチコンサート（盛岡）	1月	県内		演者、観客数等）2,887名	
4 鑑賞事業	1 風のスタジオ企画事業（招聘・提携）	特になし		盛岡	1名		0
	2 もりおか町家物語館企画事業（招聘・提携）	○上演サポートプログラム「Co.Ruri Mito ダンス公演」実施。 ○「盛岡町家演芸会 2021」実施。	11月 10月	盛岡	1名	総観客数 133名	—
	3 宮古市民文化会館芸術文化事業（鑑賞）	○学校鑑賞事業4本実施 音楽劇1、音楽3 ○一般鑑賞事業5本実施、（みやこ市民劇第3回公演翌年に延期のためプレ公演「さらば義経を語る」を実施。） ○共催公演事業6本、みやこ復興寄席等実施 ○その他芸術文化事業 市民文化祭→中止（関連事業2本実施） 宮古郷土芸能祭、市民芸能祭り、岩手芸術祭巡回美術展の3事業は実施	通年随時	宮古	4名	観客数 3,018名 観客数 660名 観客数 1,796名 入場者数 2,704名	—

	ンブル」活動継続を支援 (宮古市民文化会館事業) ○ジュニアオーケストラ 選抜メンバー参加、いわて フィル定期演奏会(いわて 文化振興プロジェクト) ※事業費はそれぞれ「宮古 市民文化会館企画事業」 「文化振興プロジェクト」 に合算。	2月	盛岡	1名	のべ参加者及 び公演時観客 数515名 ジュニア選 抜参加者7 名 観客数280 名	
2 学校及び 地域への講師 派遣ほか	コロナ禍により派遣事業 は実施できなかった。	—	—	—	—	—
3 いわて文 化支援ネット ワーク事業 (岩手県 NPO等によ る復興支援事 業助成「文化 芸術によるコ ミュニティ形 成事業」)	演劇交流事業(沿岸と内陸 部)や震災文学(児童文学) の公募、3,11文化復興フォー ラムなどを行ったほか、 文化支援の中間コーディネ ート、啓発事業、人材育 成事業などを実施した。	通年	県内	4名	参加者・観客 163名 発行冊子 700部	3,680
4 文化芸術 コーディネ ート事業	県からの委託事業(盛岡広 域圏、沿岸広域圏)県民の 文化芸術活動支援のアド バイスやコーディネート、 各地域にてネットワーク 会議などを実施。	通年	盛岡 沿岸	3名	約312件	25
5 風の公民 館事業	「風の公民館事業」 ○もりおか町家物語館 「弦楽器の学校」「オラホ の盛岡弁塾」「DOMA	10月～ 1月	盛岡	2名	受講者 のべ151名	—

		アート&クラフト講座」開催。「盛岡芸妓お座敷体験講座」は会場を料亭に変更し3回開催。「お酒の学校」は中止					
	6 地域づくり事業	○もりおか町家物語館地域連携事業（旧暦のひな祭り、てどらんど、お盆の黒川さんさ）は中止。 ○「浜藤古本市」実施。	— 6月	盛岡	— 1名	— 来場者 300名	— 12
	7 子供たちのための伝統文化の体験機会回復事業（伝統文化親子教室）	江戸糸あやつり人形芝居、能楽、民謡、書道、華道、茶道等生活文化など、子供たちが伝統文化に触れ、体験する機会を創出した。	6月～2月	盛岡近郊	4名	参加者 632名	13,770
	8 役員・会員等の文化芸術活動のサポート等	役員・会員等の指導者や出演者・スタッフとしての派遣要請にかかるサポート等。今年度は活動なし。	—	—	—	—	—
7 その 他	1 施設喫茶店の運営、ミュージアムグッズ等の製作販売及び大正蔵の運営	もりおか町家物語館内喫茶店「DOMA」を大正蔵に移転し、ショップ&カフェとしてオープン（5月）。跡地をコミュニティスペース等として活用を検討した。 大正蔵での展示等各種イベント運営及び物販、喫茶の展開。ミュージアムグッズの販売。 母屋ではプレイガイドの運営を行う。	通年 4月～ 10月～ （会期中）	盛岡	4名	参加者 17,366名	11,172

		大正蔵収入実績額 8,940,946 円					
2 文化芸術 推進計画の策 定支援と提言	理事長が中心となり県及 び市町村の文化施策に対 するサポート及び提言等 を行った。	通年	県内	1名	岩手県及び 盛岡市等	0	
各種共催事業 の推進	三陸国際芸術祭の共催と 実行委員会参加（継続）、 宮古市民文化祭、岩手芸術 祭映像フェスティバルな どの運営協力。	通年 12月	県内 宮古 盛岡	2名 2名		0 0	
3 法人運営 事業	○もりおか町家物語館の 会計処理の改善と企画総 務部の強化を行った。 ○職員研修の強化（管理監 督職以外の全職員のコミ ュニケーション能力や制 作能力の向上、舞台技術等 の習得等） ○新型コロナウイルス感 染拡大防止対策にかかる 諸事業の展開。 ○可能な職種について、在 宅勤務及びWEB会議等 で対応した。 ○盛岡及び宮古における アーティストインレジデ ンス施設の獲得と維持。	通年	県内	3名		0	

(2) その他の事業（収益事業）

特になし。